

電気通信大学次世代研究者挑戦的研究プログラム 「独自ネットワーク形成を行う開発主導型博士学生研究・教育支援プログラム」応募申請書			
学籍番号		(フリガナ) 氏 名	
博士後期課程 入学年度・入学月	年度 月 入学	所属専攻	
主指導教員		国籍	
現住所			
連絡先 email address			
現在の専門分野			
現在の研究課題名			
現在受けている支援内容			
現在応募中の支援制度			
これまで学んだ言語とその期間			
学歴(学部・修士)			
職歴			
これまでの休学期間			

(注意1) 本事業では、JSPSの特別研究員などの支援を受けている場合および、途中から採択された場合には支援対象から外れます。

(注意2) いったん提出した応募書類は変更できません。また、申請書は本プログラムの応募審査のみに用い、返却は致しません。

## (1) 多摩地区研究機関を想定した短期共同研究提案

本事業で選考された学生は、主として多摩地区にある研究機関での異分野短期共同研究の立ち上げを行っていただきます。研究機関は、国立極地研、国立天文台、NICT、JAXA、NTT 基礎研などを想定しています。それら機関の研究内容をご自身で調査した上で、どのような共同研究を立ち上げるかを提案してください。評価基準としては、自らのスキルを活かしたものになっているか、半年という短期間で仕上げるスケジュール感はあるか、相手機関に受け入れられるものになっているか、自らの専門研究からどれだけ乖離したものになっているか、などになります。

相手先研究機関

想定した部署などの情報

提案研究課題名

目的、研究スケジュール、半期での目標、その後の展開予想など。図表を用いても構いません。最大で2ページ以内で記述ください。

（1）多摩地区研究機関を想定した短期共同研究提案（続き）

（2） 研究者・技術者向けリカレント教育ツール提案

ご自身の持っている研究スキルや自分の専門研究に関連した技術などを利用し、社会、特に産業界の研究者・技術者が必要と思われる教育ツールを提案してください。評価は、教育ツールとしてのオリジナリティ、教育ツール商品として社会に出した場合のインパクト性、社会のニーズへの対応などの点で行います。

提案する教育ツール名

想定する社会のニーズや自身のオリジナルな部分、どうやって社会人再教育を行うか、実験装置やツールなどのコストなどについて記述してください。図表を用いても構いません。2 ページ以内

(2) 研究者・技術者向けリカレント教育ツール提案 (つづき)

もし、本プログラム支援学生に選考されなかった場合でも、このツール開発を行う希望はあるか？

はい

いいえ